

は、適當の行動と云ふ可きである。

最近に至つて、塞耳比亞の軍は、獨塊勃の大軍に攻められ、之れが爲めに、其の殘餘の軍は、アルバニヤに逃入するに至つた。塞耳比亞人は、伊太利人とは曾て接近した。乍併此の二國人は、永久の身方たる可きものとは思へない、去れど尙ほ目下の塞耳比は、伊太利の身方たる國である。是故に伊太利は、特に好機會の到來として、アルバニヤに出兵し、セルビヤを救ふの名を掲げて居る。伊太利の東方政策の爲めには、甚た好機會である。

伊太利は、最近に至り、英佛露白日の講和大同盟に加入した。斯くして伊太利は、既に自然に獨逸とも敵國となつたのであり、斯くして伊太利は、茲に我が大日本國の同盟國ともなつたのである。

伊太利の塊國に對する戰鬪よりは甚だ振はないけれども、彼の山地の戰爭は困難であるへきを想へば、唯た遠方から之れを眺めて冷罵するのは適當ではない。我等は伊太利軍に全情すべきである。

### 第三部 伊太利の内政

#### 十、伊太利と羅馬法王

##### 甲、法王の地位

普佛戰爭に乗して伊太利政府は、羅馬府を占領し、全地を以て、伊太利王國の首府と定めた。茲に羅馬法王は、一國君主たるの權威を失ふたのである。

一千八百七十一年五月十三日、伊太利政府は担保法たるものを發布して、羅馬法王の地位を確保する事にした。而して其の法は、伊太利の國內法であるから法皇の全意は得ないにせよ、有効のものである。其の法の内容は大要左の様なるものである。

- 一 法王の身体は神聖にして冒す可らず
- 一 法王は出版法上の犯罪に關しては、國王と全一の權利を有す
- 一 伊太利政府は法王に對し、主權者と全一の榮譽を表彰する事を約束す

一 伊太利政府は毎年三百二十二万五千フランの年金を法王に支給す  
 一 ヴァチカン及ラトランの宮殿は、伊太利王國の國有物と見做さるゝも、引續き法王の使用に供せらる可し  
 一 此の二宮殿内には、伊太利の公力たりとも侵入する事を得ず  
 一 法王は其の機關を保有し、僧會僧官其他の營造物を保有するの自由を有するが故に、ヴァチカン政府は之れによりて教會を支配することを得  
 一 法王は外國と直接に商議し、各國の使臣を接受するの權利を有す  
 一 法王は通信の自由を有し、特設郵便電信局を有す  
 大要以上の如くであつて、法王は今ま尙ほ現に、恰も君主の如き待遇を受けて居るのである。但し其の範圍は宗教上の事柄に止り、政治上には及ばないのである。乍併、法王廳には特別の官吏を有し、又法王廳を守備する奇異の服裝を爲せる特殊の兵士も居り、獨立の裁判所をも備へて居り、又若しカトリック教國の君主が、公式に伊太利に來る時には、先づ第一に法王に對して敬意を表する事と定められて居るか故に、伊太利王國の爲めには、一種不便のものたるに相違ないのである。

乍併、近來羅馬法王は伊太利の爲めに、其の宗教、道德、慈善の方面に盡されて居つて、決して政府に反抗するもか如きことはない。嘗てレオン八世は、自ら社會改良主義者の頭目を以て任し、特に貧民の爲めに同情を表し、且つ宗教に權威を保たんことに努力せられたのであつた。ピオ十世の如きも、國民に道念を養はしむることに就て、大ひに信念を以て努力せられたのであつた。伊太利に於ては、佛國に於けるが如く、益々宗教を無視するものが増加せんとしつつある所から、法王廳は全力を盡して、宗教信念の維持に努めて居るのである。

乙、今日の羅馬法王

今の法王プノア十五世は、一千九百十四年九月三日、日法王に選舉せられた人である。彼れは元と伊太利ボロギヤのアルシユヅヅクであつて、羅馬教會に屬する人より、全數の三分の二以上の多數の投票に依り、其の法位に就ける人である。彼れは、十八世紀の終末に、全しくボロギヤの教會を盛大にしたる、法

王ブノア十四世の紀念の爲めに、ブノア十五世の名を襲ふた次第である。

今の法王は佛人からは佛人の爲めに、全情なる人と云はれて居る。其の証據として、彼れの法位に就けるより僅かに數分時の後、巴理のアルシェヴェックなるアメット僧相が、彼れの榮位に昇れるを祝さんとして彼れに近くや、彼れは両腕を以てアメット僧相を抱擁し、彼れに接吻し、而して、「余は巴理のアルシェヴェックを接吻しつゝ、佛國の寺院を接吻すと云つた事があり、又法王の國務長官として、初めには佛人に人情ある、フエツタを任命し、其の後には、巴理に於て、十八年間の久しき、加特理協會學校の寺院法教授たりし、ガスバリー僧相を以て之れに代らしめた事實がある、兎に角、今の法王が、親佛政策を持する人であること、丈は誤りない事である。

彼れは其の地位に應じて、非戰論者である、彼れは戰爭の原因を以て、(一)慈悲心の冷却、(二)權力の輕侮、(三)各階級間の反抗、(四)一時的幸福の欲求なりと稱し、就任早々平和の恢復を神に祈り、地に叫んだものである、彼れは、基督は、平和の君主と已を呼ひし事歴を説き、以て、戰爭の基督教に反するを唱へ、又先きの

法王に對し、埃國の大使が、埃國の軍隊の爲めに幸福を祈らん事を乞ひしに對し、先代法王は、余は、平和を喜ぶと答へられたりし事を説ひて居るのである、又彼れは、神の休戦なる事を主張し、基督降誕の日には、終日休戦を爲す可きことを交戰國に要求したのであつた、然るに此事は、獨逸の反對する所となつて、實行せらるゝに至らなかつた、又彼れは、部下の僧侶に命令を發し、俘虜の爲めに同情し、可能的俘虜の苦痛を輕減し得可き方法を執らんことを要求した、洵に適當なる處置である、彼れは其の部下の僧徒をして、此事の實行に努めしめたのである、(イリヌストラシオン、一九一五年一月號に依る)

彼れが、米國人カールヴィーガントに謁見を許し、又リベルテ新聞の特派員ルイラタビード會見して、語れる所の如きは、共に戰爭の慘害を述べ、平和の必要を主張したものであつて、決して交戰國の一方の爲めに不公半の言ではなかつた、但し極力獨埃軍を罵倒するが事なき所から、獨埃の不法に怒れる英佛人中には、法王を惡評したものがあられるけれども、這は唯だ一時の感情論に過ぎない言である。

伊太利が愈々英佛に身方して起つに至れる迄には、法王廳の周圍には、獨塊側の代表者が色々活動して、法王をして平和説を主張せしめ、斯くして伊太利をして戦争に参加せしめざる様に、努力したものであつた。乍併、今の伊太利は、古への如くにローマ法王の伊太伊ではないか爲めに、此等の努力は畢竟何等の効力なく、伊太利は國民の輿論に由つて、終に獨塊に對して起ち、普魯西やバイエルンの代表者及埃甸國の代表者は、皆な其の計畫齟齬して、羅馬を引き揚げたのである。

本年の初め、ローマ法王の使節は、我國に來り、我が陛下の即位式を祝賀せられた。日本とローマ法王との親密の關係が、一千六百年代、伊達政宗の使節を送つて以來、恢復せられた事も、國際關係上特筆す可き事である。但し先きには、我れより、「法皇の御足を吻ひ奉る爲めに支倉を送り、今は彼れより我が天皇陛下の御即位を祝賀せんか爲めに、使者渡來したのである。主客の關係、非常な差異である。

## 十一、伊太利の民主主義的國政と 國家主義的事業の統一

### 一、民主主義的國政

近代伊太利の政治的特質は、民主的傾向の益々熾盛なる事である。而して同時に、民主的國家主義の運動は、大勢力を有して居る。

今の伊太利王家、即ち古へのサヴァア侯ユーージェーヌの後裔たる現王朝は、依然國王として伊太利に勢力がある。其の勢力は、其の人望が説明して居る。全王朝の力は、今ま尙ほ一般に人民に信頼せられ、又王朝は一般輿論に深く注意されて、其の先頭に自ら立たれて居る。是れ全王朝の隆昌を維持しつゝある所以である。深く歴史の説明を俟たずとも、彼の中、部伊太利分裂の時代には、全地方の國王は、自己の私益のみを考へて、自己の權力及財産の増大をのみ顧慮したが爲めに、人民は遂に、此等の王朝より離反し、遂には革命迄起すに至

つたのである、然るにサヴァ王朝は賢明にして、常に民の幸福を重んじ、數度の戦勝の後ちと雖決して此の方針を改めず、伊太利統一后と雖亦少しも此の大方針は改むることはなかつた。

伊太利に於ける、民主主義の傾向は、徐々に且つ最も穩和に、進歩しつゝある、當初識者は、全人民に選舉權を與ふることを欲せなかつた、若し全人民に、選舉權を與ふることゝなつたなら、眼に一丁字なき、無智識階級が、全選舉人の三分二を占むることゝなる譯であつて、之れが爲めに、政治を紊すの虞あるため、一般識者は、普通選舉に反對であつた、即ち選舉權は、多少の智識ある人士のみ、與へらる可きものであるとなし、普通選舉の事は、初め伊太利の識者から排斥せられて居たのである、此事は畢竟するに、北部伊太利人に、恩惠を與ふる結果を齎す事となるのである、伊太利に於ける智識階級は、北部に多くして、南部には大多數が、無識無學者である。

一九一一年、時の政府の提出に係る、選舉資格擴張案は、普通選舉に稍や近き性質のものであつて、實に其當時に於ける、有權者九百万人に對して、三百五十

万人を増加するものであつた、即ち三十歳以下の無學、及兵役義務を終らざる者を除き、全伊太利人に、選舉權を與へんとしたのである、内閣議長として、時の伊太利政界に大勢力あつた、ギオリッチ氏は、從來、普通選舉反對論者であつたが、近來説を變し、普通選舉の到底避く可らざることを力説し、殊にトリポリ戰役の際に於ては、勞働者階級の人民は、外征に従事して、伊太利の名譽の爲めに、血と肉とを國外に捨て、居るにも拘はらず、國內に於ては、彼等に選舉權を與へないと云ふ理由は、不徹底であると云つて居たのである。

又別種の選舉權擴張案は、一九一二年五月、萬衆の注目の下に、票決された、其の結果、婦人に選舉權を與ふることは、二〇九對四八の少數にて否決されたが、伊太利に於ける、眞面目なる政治家は、婦人の政治運動に付ては、決して好意を以て、之れを迎へて居ないのであるし、政府自身も亦決して婦人參政權を賛成しては居ない、蓋し適當な處置であらう。

伊太利に於ける選舉人の數は、年と共に増加して居る、而して農民にして、選舉權を有するもの、漸次に増加し、就中、最近南部伊太利の農民中に著しく有

資格者が増加したのである。一九一三年十二月の総選挙は、可なり激烈の競争が行はれたが、其の結果は、特に目新しい傾向を來さなかつた。唯だ自由黨は三百七十二名より、三百十名に減少し、過激黨は、五十一名より七十名に増加し、社會改良派は、十八名より二十五名に増加し、社會黨は、二十三名より五十三名に増加した。一方共和黨は、如何かと云ふに、年々減少の傾向を表はし、其際は、二十三名より十七名に減少し、之れに反し加特力派は、二十一名より三十三名に増加した。以上は、大体重なる増減であるが、要するに當時の政府派の勝利であつた。

以上の内、社會黨及社會改良派の増加したのは注目すべき現象である。此の選挙終了するや、國王陛下は、三名の社會主義者を元老院議員に任命し、同時に民主と帝政とを折衷せる演説を試みられた。伊太利には民主は既に到底抜く可らざる勢力である。

一千九百十四年の春、伊太利に同盟罷工が起り、將さに變して、共和政を主張せられんとするに至つた。併し此運動は、罷工者が自ら電線電話を切斷して、

他との交通を斷つたが爲めに、却て連絡を欠ひて、不成功に終り、兵士の出動に依つて鎮壓された。全國に民主傾向の熾んなることは否むことは出来ない。

## 二、國家社會主義的事業の統一

伊太利の國家社會主義に就て述べて見ると、此主義は、最近伊太利に於て、漸次熾んに唱導されて來たものであつて、昔時の中部伊太利政府が、國家の基本的諸權利さへも、實行しなかつた反動として、國民の自覺的に唱へ出したものである。

(1) 先づ鐵道國有の事に付て、述へて見ると、初め伊太利の鐵道は、諸會社によりて、個々別々に經營されて居たが、一八八五年に至り、財政的秩序を理由として買収の案が立てられた。此の買収政策も、思ふ様に行かなかつたが、二十年後に到つて、初めて一般的買収をなすに至つた。此の時に迫んでは、國家の財政も整頓して、國家自ら、充分大鐵道を經營するに足り、今や伊太利に於ては、新制度を確立して、諸般の改良を施しつゝある。伊太利の重なる鐵道は、今日は

既に、他國に比して餘り劣つて居ないのである。

(ロ) 電話の買収は、一九〇七年に行はれた。此の買収は、急激では無かつた、而して私線も尙ほ買収后數年は存在して居た。電話國有に付ては、反對者から随分猛烈なる非難攻撃を受けたれ共、乍併會社箇々の經營よりも、寧ろ國營を可とすることは、定説である。現に、ロンバルヂヤ地方では、私設會社の電話が敷かれてあるが、今日に於ては、國有にせられんことを、地方人民は、願ふて居るのを見ても分るのである。

鐵道及電話の買収は、結局國家の財政に、利益を與ふることは論がない、又國家財政上に利益を與へずとも、其の統一進展の上に、利益を與ふることは、毫も議論の餘地はない。現に伊太利が、私營の鐵道及電話を許したときは、南部地方は、人民の富の程度が、低く從て利益が擧がらぬ爲め、事業は起されなかつた。我國に於ても、鐵道國有は、先年行はれたが、例は九州鐵道の如きは、随分利益のあつたに拘はらず、東九州の別府より宮崎都城を経て、鹿兒島に通ずる線路は、民營としては終に起されなかつた。蓋し是れ國家の利益よりも、私の利益を

考ふるからである。然るに一旦國有となると、今日既に、其の大部分の工事は出來上つたのである。伊太利に於ても、之れと同じく、南部伊太利に於ける、利益の擧がらない地方の、鐵道及電話は、國有后の今日に於て、初めて見る事が出來たのである。

(ハ) 尙國家社會主義の發現として、顯著なるものは、一九一二年四月四日の法律によりて、制定せられたる、生命保險の官營獨占である。該法律は、外國殊に佛國に於て、非常に非難されたものである。伊太利に於て經營して居た、外國會社、及相當の賠償なくして營業を禁止されし外國會社か、之れか爲めに、自己の利益を毀損せられたことは、確かである。此處置に付ては、國際法又は條約上の違反なりと云つたものもあるが、ハーグ裁判所には、終に提出せられなかつた。是れ伊太利の勝利である。

斯る問題を惹起したに付、注意せねばならぬことは、伊太利に於て、生命保險會社を經營して居る者は、大部分が、外國人であつたことである。外國人の有する資本額は、實に八億圓を超過して居たのである。而して其の内の四億圓

以上は、埃太利人の資本なりしより、埃伊間に、一の重大なる問題が起らんとしたのであつた。

生命保険官營の際に、論議された中に、此の制度は、決して財政上の利益の爲めではないと云ふことが確言された。此の点は、私人の會社と大なる相違の存する所であるが、其の判断は將來に於てのみすることが出来る。

官營主義に依つて成つた、保険官營局は、法人として存在し、財政上の自治を有するのである。其の職員に付ては、任命の形式を採つて居る。監督は無論國家のなす所であつて、即元老院議員、衆議院議員及或る特別の市民の監督に委せられて居る。生命保険の如き、人民の生命に保証を與へる事業は、理論としては、私利一点張りの會社員に委す可き性質のものではない。人民の金を無利子で預り、之れを他に適當に有利に廻すと云ふ事は、而かも種々なる方法を以て、勧誘して人民の貯蓄を預り行くと云ふことは、随分利益の有過ぎる仕事であるし、又危険の虞ある仕事でもある。其れ故に、人民の生命財産の事を眞に憂ふるならば、此の事業は國家事業として、人民に養老金、又は相續者の資

金を保証するようにしてやらねばならない。

(二) 其他、伊太利に於ては、或る種の事業を、自治体即ち市町村をして、自ら營ましむるの新制度を設けた。其の事業の中には、總て揭示廣告をなす事を自治体にて行ひ、成功したのも、不成功のもあつた。又電車及馬車の事業をも、市町村の手に移し、又藥劑の販賣を市町村をしてなさしめた。藥劑の專賣は大いに利益を擧げた。又アルコールの飲用を制限する方法も行はるゝに至つた。又動物の虐待を禁し、伊太利の古美術品の外國人に賣らるゝのを防ぐの方法も取られた。

以上は、箇人の自由を認むると云ふよりは、箇人の利益と幸福とを考へ、寧ろ箇人の自由を制限して、國家主義を行つたのである。之れを國家社會主義の政策と云つても好ひのである。

## 十二、伊太利の軍備

伊太利の近き過去に於ては、人民の軍事的能力は、甚だ微弱であつた。又財



政も窮乏の状態にあつた。而かも過去の伊太利は、四分五裂、國際的權威なく、心ある爲政家の頭を悩ますこと少々ではなかつた。

ローマ府占領の時、即ち伊太利が最後の完全なる統一を爲したとき、佛のタイエールは、當時各國を巡遊し、佛國の急を告げ、伊太利皇帝ビクトル、エマヌエル陛下に對して、プロシヤの侵入に對する、伊太利の協力援助を要求した。國王は個人としては、佛蘭西に好意を有して居られた所から、彼れに説かれて、大に心動かさせられたけれども、當時の伊太利陸軍は、十萬の兵を有するに過ぎなかつた。従て伊太利の協力又は干渉は、到底佛國の頽勢を盛り返すことは出来ないと云ふので、伊太利は、其の要求に應しなかつた。這は口實に過ぎないにせよ、兎に角、當時の伊太利の兵力は、未だ有力のものではなかつた。

今日の伊太利は、如何であるか、平時には、二十五師團二十八萬の兵を有し、戰時には直ちに、百萬の軍を動かすを得べく、國民軍を加ふるなら、三百五十萬の大軍を組織することが出来る状態である。此の數字は、最近四十餘年の歳月を費したる、大努力の結果である。

伊太利陸軍は、現役三年で、其後は豫備兵として、歸郷するのである。此の伊太利兵は、機敏にして、困窮に堪へ、才能あつて、良く訓練されて居る。陸軍兵としては、歐洲に於ける、優良なる兵士部類に屬すと云はれて居る。此事は、トリポリ遠征の際にも、大体發揮せられたが、今回の戰役には、着々として其の効果を發揮するであろう。伊太利兵の訓練に就て、今日も尙ほ伊太利人の誇りとする所は、彼のベスピアス火山の大爆破の際に、民衆は驚愕と云はんよりは寧ろ落膽し、落膽と云はんよりは寧ろ失神と云ふべき状態に陥つたし、折軍隊丈は、民衆保護の爲め、一糸紊れず、將校指揮の下に、花々しき活動をしたのであつた。此事は其の訓練を示したものとせられて居る。

伊太利兵の飲酒は、近來非常に其の量を減じ來つて、今日では、酒の爲めに、失敗する例は、甚だ稀である。此点は歐洲各國陸軍の羨望する所である。

又將校に就ても、教育は一般に好く行き届いて居り、加ふるに、部下に對しての訓練は、嚴格と云はんよりは、寧ろ親切である所から、將校と下士卒の間に、忌はしい風聞はないとの事である。眞に國家を惟ふの將校は、兵卒に對しては、

必ず、斯くあらぬばならない事は各國共に然り。

伊太利軍隊では、時々、兵卒と將校との競馬會が催されて、其の間に、兄弟の様な秩序と尊敬とがあるのは、特に注目されて居ることである。

伊太利政府は、陸軍軍隊の教育に關しては、優秀なる効果を収めんことを欲して努力して居るが、併し其の努力が、屢々議會に於ける、議員の不謹慎なる民主的意見の鼓吹の爲めに、破られんとするので、之れには、困難するものゝ如くである。

併し民主が既に國風であるから、此の影響を受けしめざることは、全然不可能と云ふ可きであろう。乍併、伊太利の議會が、軍備の擴張に關して、從來功勞あることは、否定は出来ない、議會は、伊太利軍備の爲めには、從來甚だ盡したものである。

伊太利騎兵の馬術は、佛埃等の影響を受けて、巧みとなつた、最近其の短所を捨て、他の長所を探り、所謂伊太利風の馬術を作るに到つた、伊太利では、十九世紀の終り迄は、從來の式を變更しなかつたものである。

次に海軍に付て之れを見るのに、伊太利建國の當初は、海軍なるものは殆ど存在して居なかつた、伊太利は、初めには、英國に依頼して、其の海岸を防禦する方針であつた。

伊太利は、其後、自己の立場を考へ、アドリア海及地中海に於ける政治上、軍事上の關係等に意を用ゆるに及んで、海軍あらずんば、伊太利半島の國民は、枕を高くすべからずと爲し、一大海軍を樹立せんと企圖した、此事は實に、一八七三年の事である、之れより銳意力を盡したる甲斐ありて、今日に於ては、五十七萬七千噸の海軍を有し、一等國の海軍としての、價値を認めらるゝに到つたのである、併し乍ら、一部改革論者の熱望する程度の、伊太利艦隊を作るには、尙未だ及ばず、之れに關し、伊太利人が苦心の狀は、誠に美はしきものがある、乍併、如何せん、目下の伊太利にては、其の財源がないのである。

ペトロ提督が警告せる如く、海軍問題は、乗組員の教育と訓練とが、重大なるものである、若し之れなくんば、如何に美麗なる巡洋艦あるも、如何に見上ぐる計りの大戦艦あるも、決して、役には立たないのである、然り而して、海兵

の募集に就ては、伊太利では別に困難はない、蓋し是れ、伊太利の長大なる海岸線が、國民に、「海」を充分教へて居るからである、只其の國民を募集して、扱て如何にして之れを練へ、又如何にして之れを導くか、が問題である。

リプルーヌ海軍兵學校出身の將校に對しては、陸軍將校に對すると、同一の價値を認められて居る、彼等は、熱心と、教育と、訓練とによりて、充分の任務を盡すことを得るのである、一言にして云へば、今日の伊太利海軍は、多大の努力の賜物であつて、又其の賜物は、益々發展しつゝあるのである。

然りと雖も、之れを以て、伊太利は、完然な努力と、充分な結果とを得て居るものと云ふことは出来ない、他國今日の、海軍の擴張の有様を見るなれば、過去の標準を失はんとするの目的のみにても、尙一層の努力を要するものがある、利太利は、塊獨と異り、本來海國である。

伊太利は、自國防營の外に、尙ほ正當なる野心を充たす爲めには、充分努めねばならない、伊太利年々の人口増加と、職業に關する争闘とは、如何にするも、國外發展を努めねばならない、是れ、伊太利の自存の道である、自存の道の

爲めには、或は他國の利益は、之れを犠牲に供せねばならない、即ち伊太利に採つては、相當の侵略は、正當なる方法と云ふも、差支へない情態に居る、此の目的の爲めには、尙ほ益々、陸海軍を充實せねばならぬ。

伊太利の海軍は、最初は佛國に對抗するを目的とし、スベチアを其根據地として居たが、輒近其の方針一變し、東方及南方に向ふこととなり、今では、タレントが其の主たる根據地となつて居る。

伊太利は、此の十五年間に、陸海軍費の總計は、五億八千萬フランから、六億四千六百萬フランに上つた。

### 十三、伊太利の經濟的發展

#### 甲、陸運、海運、郵便、電信

先づ之れを陸上交通の發達に見るのに、一八六〇年に於て、鐵道は二、一九八キロメートルに過ぎなかつたものが、一九〇九年には、一八、〇〇〇キロメートル

ルに増加したのである。尙其の上に、電車八五、〇〇〇キロメートルに達し、而して乗合馬車は、數多き發達をなして居る。

又普通の道路も、伊太利統一の際には、四八、〇〇〇キロメートルに過ぎなかつたのが、今日に於ては、一四〇、〇〇〇キロメートルを超過して居る。

又海運に付ては、一八六二年に於ては、全伊太利の商船は、汽船が五七隻其の噸數一〇、二二八噸、帆船が九、三五六艘、其の噸數六四三、九九六噸であつたのが、一九〇八年に於ては、汽船六二六艘其の噸數五六、六七三八噸に上り、又帆船は四七〇一艘、其の噸數四五三、三二四噸に下つた。

帆船の數の減少は、勿論、汽船の發達と共に、帆船不必要となつたものが多いからである。

之れを港灣に於ける船舶の出入に付て檢するに、伊太利諸港に於ける、船舶出入數は、一八六一年に於て、伊太利國旗の掲揚船、一九〇、五五〇、外國々旗掲揚船二三、八三七艘であつたのが、一九〇九年に於ては、伊太利船は、二四六、二四六艘、外國船は、二七、四三四艘となつた。又之れを其の噸數から見れば、一八六

一年には、伊太利船は、九、一三六、五二九噸なりしものが、一九〇九年に於ては、五三六、六八、〇〇七噸に増加し、外國船は、五、一六一、一一六噸より、四〇、一九六、六三二噸に増したのである。以て其の通商の發達を解す可きである。

斯くの如き増加の有様であるが故に、各港の發展は、實に想像に難くない。殊にジェノアに於ては、一八六二年には、其の貨物の積卸されたる總噸數が、二〇七七、七〇三噸であつたものが、一九〇九年には、七、〇〇〇、〇〇〇噸の多きに達したのであつて、其の他、ナールブル、リゾトルヌ、ヴェニス、パレルムは、ジェノアよりは劣るけれども、又相當に其の噸數を増したのであつた。

又之れを電線に見るのに、伊太利は、一八六〇年には、電信線が、八、〇〇〇キロメートルであつたものが、今日は、五四、〇〇〇キロメートルを超過して居る有様である。尙ほ此外に海底電線及無線電線もある。

更に電話及郵便に付て見ても、夫れ／＼異常の發達を示し、殊に郵便制度は、伊太利統一の際の如きは、或る地方には、皆無であつたものが、今日は非常に發達し、一千九百十年には、一億七百萬の發信數があつた。

乙、工業

伊太利統一の始めの時代には、工業は、ピエモン及ロンバルデーに於てのみ之れを見ることが出来たのであるが、今日に於ては、到る處に之れを見ることが出来る。特に、最近三十年間に於ける進歩は、著しいものである。例ば一八八九年に於ては、砂糖の工場は、伊太利には、唯だ僅かに一ヶ所のみであつて、而して其の只の一つの工場は、リエチに存在し、其の工場も、微々たるものであつたが、今日に於ては、三十二の工場を有して居る。

電氣工業は、伊太利に於ては、最も有望である。何んとなれば、伊太利には、水流の速度の早い河川が、隨所に存在して居るからである。水力電氣は、隨分遠隔の地にも又邊陲の地にも、恵を與へて居るのである。

大工業中、特に金屬製造工業は、今日最も必要を感せられて居る。而して此事業中、其の第一位にあるは、テルニの鋼鐵製造所であつて、其の設立は一八八四年である。此の製造所は、目下は種々の物品を製作して居る。其他ボルト、

フエラジョの溶礦所、ナーブルの造船所、サボニス及リギユリーの諸工場等は、伊太利の重なる工場である。

ゼノア地方のアンサルド工場は、近世の大艦船の建造、及武装に關する一切の材料を提供する所である。

リブール又のオルラント造船所、セストリボネンテ、及ラフォオーセのオデロ會社の工場、フィア、サン、ギオルギオ工場、ナポリテニス工業會社の工場は、伊太利現代の大工業組織の進歩を確かに語つて居る。特に、此のナポリテニス工業會社は、一手に國家の戰鬪材料を引き受くることも、尙ほ餘裕があつて、其の設備完成して居る点などは、他の會社の企及し能はざる所であると稱せらる。伊太利金屬製造工場に供給する原料は、主としてエルバ島の鑛脈より來り、サルデーギュの鑛脈も、亦之れを補充して居る。

鑛物上の産額は、一千八百六十三年に二千八百萬フランなりしものが、一千九百十三年には、約七千八百萬フランに達し、金屬物の産出は、二萬八千フランより、二百二十五萬フランに昇り、化學上の工藝所は、一千八百六十年には皆無

なりしものが、一千九百十三年には、一億三千四百萬フランに達し、絹の産額は東洋の競争に壓迫せられつゝあるに拘はらず、二倍に達し、絹の輸出は二億フランより、六億フランに達し、綿は十五萬カンタール(百斤)より二百萬カンタールに達し、羊毛の輸入は三倍した、以て其の工業の進歩を見る可きである。

伊太利に於ては、此の十年來、水力を使用することが大ひに流行して居る、工業の進歩に従ひ、賃金は、大ひに増加し、織物職工の賃金は、四倍又は五倍に達して居る、其の割合に、生活の程度は進まないと云ふから、彼等は追々富むのである。

最近の統計に依ると現に伊太利には、二十四萬三千九百八十五の工場があつて、之れに使用せらるる職工の数は、二百三十萬五千六百九十八人であり、之れに用ひらるゝ動力は、百五十七萬三千七百七十四馬力である。

今日に於ける工業地は、伊太利の北部諸州、トスカニー、及コンパニー地方が重なるものであつて、之れに次くものが、シシリ、及プイユである。

伊太利に於ては、自働車の製造も發達して居るが、チューリンが其の本場で

ある、自働車の輸出は、三千八百萬フランに達し、排氣機の輸出は五千萬フランに達する。

伊太利には、トラストが存在して居る、金屬製品に付て特に此の制度が、用をなして居る。

伊太利には、外國の資本が多く働いて居る、伊太利の北部には、獨逸の資本が最も多く注入せられて居ると云はれて居る、但し伊太利の經濟學者の説に依れば、伊太利には、多くの外國資本が投下せられて居るけれども、決して外國資本は、伊太利の工業を獨占して居るものではなく、又外國資本としては、一般の説は過つて居つて、第一に瑞西、第二に白耳義の資本が投下されてあると稱へて居る、(エトローレ、ロリニの説)、外國會社の資本の投下せられたる額は、四〇九千二百萬フランに達し、其の中、電氣鐵道に付ては一億二千一百萬、鑛山、金屬工業、化學工業に付ては七千五百萬、瓦斯に付ては七千一百萬、水力に付ては六千一百萬、鐵道に付ては四千四百萬、海運に付ては三千三百萬、保險に付ては三千三百萬である、尙ほ外國會社の債券は此以外であつて、其の額は八億

五千萬乃至九億フランに達する、尙ほ又此以外に外國人の有する公債其他の債券、不動産、銀行預金等を合すれば、殆んど二十一億二千萬フランに達するとの事である。

伊太利の經濟家は、之れを以て未だ不充分なりとなし、更に多く外資を輸入して、有利に之れを使用するを要すと唱へて居る。

### 丙、商業

伊太利の貿易は、五十年間に五倍し、一千八百六十年には、輸入は五十三萬なりしものが、一千九百十二年には、三十六億四百萬フランに、又輸出は、五十七萬七千より、二十三億九千六百萬に達した、此の輸入の増加は、一部は出稼民の貯金であり、又一部は原料品である。

一八九七年乃至一九〇七年の十年間に於ける、歐米各國の商業の進歩を見るのに、英は三十八パーセント、露は四十五パーセント、佛は五十パーセント、獨は八十一パーセント、米は八十四パーセントを増して居るのに、伊太利は、九十

九パーセントを増して居る、乃ち伊太利は第一位である、而して一九〇〇年乃至一九一〇年の十年間の情況に依れば、佛は五十二パーセント、獨は六十三パーセントであるのに、伊太利は七十五パーセントを増して居る、以て其の發達を知る可きである、此間伊太利は、ジェノア、ナールブル、ヴェニス等の港灣を改修し、大ひに貿易に便したのであつた、又伊太利では、ミランとアドリヤ海とを、堀割に依つて聯絡させんと企て、居り、現に實行されつゝあるのである、而して其の費用は五千萬フランである。

### 丁、金融及財政

#### (イ) 金融

當今の伊太利は、財政金融共に豊である。

伊太利の商業銀行は、其の商工業の發達と共に、大ひに發達し、多くは伊太利の資金を以て建てられて居る、但し、バンク・コンメンチアレは獨逸の資本を以て出來て居る。

重なる農業銀行に於ける預金は、半世紀間に、二億より、四十億フランに達して居る。又貯蓄銀行の預金高は、一八六三年より一九一三年に至る間に、四千八百萬より、二億四千萬に達し、証券の預け入れは、四千三百五十萬法より、十三億フランに達し、又郵便貯金は、二百五十萬なりしものが、一千九百十三年には、二十億フランに達して居る、其の増加の情況を知るべきである。

(ロ) 財政

伊太利の財政は、四期に分つて見るのが便宜である。第一期には、實に二億乃至七億法の不足であつた、然るに一八七三年乃至一八八四年には、重税を課して此の不足の歳計を處理した、之れが爲めに伊太利人は非常に困んだ、是れクリスビーの三國同盟に入り、多大の軍備を擴張せる政策の結果であつた、即ち獨逸の犠牲となつた結果であつた、然るに一八九七年以後は財政に餘裕を生じて來た、而して一千九百十三年度の豫算は、歳入二十一億九千三百萬なるに對し、過剰九千八百萬フランを生じた、是れ移民と各種事業の發展に基くものであつて、實に大なる順況である。

而して此の過剰に付ては左の割合を以て、之れを支出に當てられた。

- 一 四五、〇〇〇、〇〇〇フラン 製艦費
- 一 四二、〇〇〇、〇〇〇 トリポリ遠征費
- 一 七、〇〇〇、〇〇〇 ローマ中央政廳費建設費
- 一 四、〇〇〇、〇〇〇 森林費

此年度の豫算費には、別にトリポリ遠征費として、二〇一千八百萬フランと、製艦費一〇四千五百萬とを計上してあるのである。

此外、トリポリの土木費として起されたる公債は、伊太利國內にて募集せられ、一千九百十四年の豫算にも、前年度と同額の海軍製艦費が計上せられて居る、伊太利の財政は、近來他の國に例のない順潮を示して居る。

尙ほ伊太利の國債の八割五分は、伊太利人の引受けて居る事の如きは、其の金融の豊富なることを示して居る、但し、伊太利の國債が、殆んど全部伊太利人の手に在る事に付ては、却つて外國の信用の保障を得る所以にあらずとなし、財政の孤立を不得策となすの學者もある(例ばギレッツチー氏の如し)乍併、國



民主主義の人は、經濟の獨立を祝して居るのである。外國公債は外國の信用を  
 維く爲めに、確かに便利であるから、少しは外國債を有することも好むと思は  
 るゝが、日本の如き餘りに多くの外債を負ふことは得策ではあるまい。

伊太利と云ふ國は國家の財政としては、右の如くに富んで居る、乍併、實際に  
 付て一般人民の情態を目撃すると、決して英佛の如くに各箇人は富んで居る  
 ものとは思へない。此点は特に佛とは全く異つて居る所であつて、佛國は國  
 の財政としては豊富ではなかつたが、人民は一般に非常に富んで居る。日本  
 の如きは、國の財政も餘りに都合好くなく、人民も英佛の如くに富んでは居な  
 い、去れど我等は何等の失望を要しない。唯た當さに宜しく努力す可きであ  
 る。經濟上の繁榮は、國民にして努力さへすれば、久しからずして得らるゝこと  
 は、獨逸人既に之れを示して居り、伊人も亦之れを証して居る。

戊、農業

伊太利は農國であるが故に、農業の問題は、伊太利の爲めに重大問題である。

伊太利の農業は、北部の諸州及トスカニア、カンパニー、東シ、リシに於て發  
 達して居る。乍併、伊太利中央部のローマ州や、中部シ、リーに於ては、甚だ振  
 はず、小作人等には、英の小作人の如くに土着の念がないのである。是れ所謂  
 「ラチフンデヤ」の制度、即ち豪族等が土地を兼併し、中農又は自作農と云ふもの  
 がなくなつた結果である。其他ポー河の地方等は、甚だ豊沃の土地であるけ  
 れども、大地主多く、従つて農業勞作人は、甚だ憐む可き情態に在る。

伊太利政府は之れを憂慮し、國際農作協會を設立し、各國の農況を調査し、農  
 業の改良を圖つた。即ち農業銀行を設立し、小農の爲めに利益を圖り、二個の  
 人工的湖水を作り、灌漑に便する事に努めた。

又小農者は、有力なる農夫組合を作り、之れを以て、其の共同の利益を圖り、其  
 の會員は、三十萬人に達して居る。而してポー河附近の農夫は、其の勞働賃金  
 を引上げ、其の収入を増加することに成功して居る。

又伊太利に於ては、沼池の多き爲めに、人民の健康を害する所から、此の水を  
 疎通し且つ樹木を植へ、以てマラリヤを防ぐことに幾分成功して居る。此事

は古への羅馬以來の問題であつて、彼のハンニバルの如きも、ポー河附近に進出して、沼の爲めに困したのであつた。

伊太利の田舎の下級民は、今尙ほ、誠に憐む可き情態に居り、其の家、其の生活情態は、宛然、アピシニヤ邊の土人の其れと同様だと云はれて居る。

伊太利の耕地面積は、二千萬ヘクタールある、一ヘクタールは、我が一町二十歩である、此の廣大なる耕地から、米麥等の穀物が收穫せられ、葡萄の採取も亦盛でんある。

葡萄に付ては、此四十年來、其の收穫二倍に昇り、其の平均量は、五千五百萬ヘクタールに付ては、此四十年來、其の收穫二倍に昇り、其の平均量は、五千五百萬ヘクタールである、是れを佛國の平均六千萬ヘクタールに比すれば、少しく劣るけれども、佛國のは、アルジェリーの收穫をも加へたるものであるが故に、伊太利の方が、却つて多く産出する次第である、但し、佛の葡萄園は、其の面積一百七十萬ヘクタールであるに對し、伊太利のは、三百八十萬ヘクタールであるから、此点から見れば、佛の方が優つて居るのである、又伊太利には、多くのオリヅ油を産する、之れを西班牙に比較すると、西班牙では、三百萬ヘ

クタールを産するのであるが、伊太利も畧は同様である、而して其の輸出する金額は、五千六百萬フランに達するのである。

又密柑や、シトロンや、マンダリンやの産額も可なり大きく、其の額は、三千萬フランに達する。

又穀類の産額は、八百萬噸に達し（但し歐洲の重なる國には劣る）、玉蜀黍は、二百五十萬噸に達し、米は九百萬乃至一千萬ヘクタールに達する、米は重にポー河の附近に出来るのである。

伊太利には、家畜は比較的少く、羊は八百萬頭、山羊は之れより以上ある。

伊太利に於ては、一時は我國に於ける如くに、英獨二國の情況にのみ眩惑し、工業さへ發達すれば、國家は富み、且つ完しと思つて居たものであるが、近來は其國の主要産業たる農業の改良及び農民の爲めに顧みるの必要事なるを惟ふに至り、一千九百十二年八月二十五日、伊太利農業會議に於て、リュザツチ氏は、特に此点に付て、公衆の注意を促した所である、斯くあらねばならない、殖産を奨励する所以のものは、本來國を富ますが爲めであつて、唯だ煙突の

煙を喜んだり、製産物の集散が面白ひとか云ふ様な兒戯的のものではない。佛國は農國であつても、富は非常なものである。露西亞の偉大なる富も農産物である。農業國には農業が大切であるは云ふ迄もない。伊太利人も此点に留意するに至つたのは一の進歩である。我が日本の經濟家が、久しく此点に迷ふて居るのは英米獨の皮相に囚はれて居るからである。勿論農業國であるからと云つて、農業以外の事は顧みるを要しないと云ふ可きものではない。斯くては進歩と云ふものは生じ得ない。農業國民が農を蔑視し、之れを棄て、商工に遷らざる可らずと云ふ事が誤りであると云ふのである。

#### 十四、伊太利の教育

##### 甲、基本教育

一千八百六十一年には、伊太利の教育費豫算は、一百万フランであつたが、五十年の後には、一億フランに達するに至つた。其教育に努力しつゝあること

以て知る可きである。

乍併、伊太利に於ける普通教育は、未だ充分には普及されて居ないのである。今ま文字を解せざるものゝ比例を見ると、一八六一年には、男は七十二パーセントであつたものが、一千八百六十一年には、四十パーセントに下り、女は全年間の比例に於て、初め八十四パーセントであつたものが、五十パーセントに減じて居るに過ぎない。但し文字が讀めると云ふ一点のみを以て、直ちに社會の文明は非常に進んだと云ふことは出來ないのであつて、若し之れが眞理なら獨逸、米國及日本は、最高文明國であつて、英や佛や是不文明國であると云ふことになるとは、實際文明と云ふものは左様のものではない。文字は書を讀むの手段に過ぎない。而して之れが讀める人の方が、却つて大なる悪事をなし、過れる考を持つものが多い事は、伊太利にても、現に証明せられて居る。併し乍ら、伊太利には兎角、未だ教育其者の普及が足りないのである。

伊太利の就學兒童は、一千八百六十一年には、一百五十萬人であつたが、一千九百十一年には、三百萬人に達して居る。其の數の増加しつゝある事は明か。

である。

伊太利に於ては北部には就學兒童が多くして、南部には比較的少い、蓋し、伊太利に於ては、南北に依り、富の程度も異り、又事情も異なるからである、伊太利に於ては、古來自治体が、教育を司る権限を持つて居た、其れ故に自治体の富める北部地方に學校多くして、南に少く、不統一であつた、之れが改良せられたのは、一千九百四年の事である。

其以前には伊太利に於ては、三年間の義務教育であつたが、之れを延長して教育を向上させた、而して一定の人口を有する自治体には、義務として學校を造らしめ、其の數三千に達した、同時に國家の教育費を増加した、是れ正さに一大改革であつた。

一千九百六年に、國家は又々教育制度を改め、特に南方の財政不如意なる自治体の爲めに、教育費の補助をなす可き方法を定めた。

一千九百十一年に至り、又々大改革を行ひ、政府は教育費の爲めに多額の經費を支出して、教員の俸給を増し、學校を増築し、學生を救助する方法を取り

之れより小學校の費用は著しく増加せられ、且つ年々増額せられる案であつて、一千九百二十一年度には、七千三百萬フランに達する筈である。

小學校に關する權力は、コンシグリ、スコラスタ、チー(監督委員會)の握る所であつて、自治体は現在に於ても、教師任命權は有して居るけれども、此の委員會の指定したるものを任命せざるを得ないのである、學校の財政其他の金錢上に關する事は、此の委員會の決する所である。

爾來、小學兒童の就學は、公力を以て強ひて之れを履行せしむることとなり、其の代りに、貧者には國家から費用、其他物品を支給するのである。

尙ほ毎年五ヶ月間、兵營に學校を設け、無學の兵士を教へるのである、佛國では、兵士を營外に伴れて行つて、學術を授けて居る。

學校の監督の爲めには、中央視學官が、派遣せらるゝ制度になつて居る。

伊太利の小學教育は、最近に至り、斯く整一したのである。

伊太利には、佛國に於けるが如く、教育の事は、之れを宗教家に委す可らずと云ふ説もある、乍併、宗教家の勢力は、今ま尙ほ存在し、其の手によつて建てら

れたる學校もある、現にジュスイツト派の學校さへ存在するのである、乍併宗教家も、政府の指示する所に服従し、決して反抗することがないから、其の問題は圓滿に解決せられて居る、國境を無視したる宗教的教育は伊太利にも認められないのである。

伊太利には、亦陸海軍の下士官を以て、教師に採用し、之れをして兒童に剛健の氣風を養はしむ可しと云ふ説もある、伊太利は、民主々義の國であるけれども、軍國精神涵養の必要なることを、識者は好く解して居るのである。

唯だ單に人民に對する文學の普及と云ふ点から云つたなら、日本の方が伊太利よりも、亦佛國よりも進歩して居る、日本人をして、唯だ單に文學を解する、然かも羅馬字のみを解する人民たらしむるが如き教育方法は、獨立せる向上國としては、眞に着眼宜しきを得たるものとは云ひ難ひと思はるゝ、何卒して日本人に基本教育を興へる際に、日本人は眞に獨創的の文明國人、眞に智徳勇の優れたる國民性を有するものであり、且つ向後益々然らざる可らざることを、教ふる様にしたいものである、其れには國民思想の熾烈なる教育

家の養成が第一の必要事である、而して此事に付ては、伊太利に於けるが如く、教育費の爲めに、成る可く多額の國費を支出する様にし、有爲の人材を養うに足る充分の設備をせねばならない。

### 乙、中等教育

伊太利に於ける中等教育は、二派に分れて居る、即ち一は高等中學程度の學校に於る、古典學クラシクの教授であつて、他は機械的の學問を教ふる専門學校に於ける實驗學である。

此れ等の二種の學校に於ける生徒の數は、一八七一年以來特に増加した、其の内古典學科は、一八七一年に於ては、一萬二千人の生徒であつたのが、一九一一年には、四萬一千人に増加した、而して其の結果も亦良好であつた、又他方國民中の大多數が、將來の實業界の爲めに學ぶべき、實驗的學科は一八七一年には、六千人の生徒に過ぎなかつたものが、一九一一年には、十萬人に増加したのである、此實業教育の制度は、佛國の教育制度を模倣したのである。

伊太利に於ては、佛國に於けると全しく、現代語の學習の必要に追はるゝ今日に於て、羅典希臘語の死語に力を盡すのは實に其の緩急宜しきを得ないと主張するものもある。

乍併古典學の必要を主張する人々の理由とする所は、希臘語及羅典語の両語を學び、以て古代の聖賢と相見ゆるは、是れ實に智識開發の爲めに多大なる利益であつて、智識開發の爲めには、之れに代るべきものは他に存しないと迄極論されて居る。併し、之れに反對する人々は、此の説を否認せずして、曰く、その説も亦、一應の理由はある。乍併羅典希臘等の死語の研究の爲めに、大に時間を割かれ、之れが爲めに、社會に活動する上に、直接に必要な、外國語の練習不足して、外國語を語り得ざる儘に、之れを社會に出すことは、青年の爲めに不利危険であると唱へて居る。日本の様に、外國語を尊敬し過ぎ、之れを骨董の如くに敬重して、實用に供する様に教へないのは、改良す可き事である。

(丙) 高等教育

伊太利統一前の伊太利の教育は、殆ど云ふに足らない程で、従つて高等教育に到つては、甚だ振はなかつた。

五十年間の努力にも拘はらず、伊太利に於ては、尙地方的色彩が容易に抜けぬため、徒らに大學の數のみ多くして、其の内容整はず、而して未だ其の數を減する迄には至らないのである。是れ各地が、各々大學を有せんとして競ふからである。

今日の伊太利は、現に尙ほ、十七個の大學を有して居る但、其の内容は、多くは、他の文明國に比して、劣つて居ると云はれて居る。

大學の數並に専門學校の數は甚だ多くはあるが、國家が之れに對して支出する經費は、割合に少額である。斯くては、其の完成は困難であるに相違ない。然るに、甚だ奇とす可きは、建築の如き外觀に、重きを置く風が見ゆることであつて、今日迄に各大學が、其の建築費を要求した額は、實に六千萬フランを超へて居る。此上に各州各自治体が、學校建築費の爲めに支出したる額は、莫大であつた是れ誤りである。

之れを羅馬のみに付て見ても、最近に建てた、臨床講義室は、二千萬フランを費したのである。又ユニヴェルシタス、ステュディオムの爲めに、三千萬フランを費して居るのである。

日本では、官立高等學校の志望者が、毎年収容しきれない程あるにも拘はらず、官立大學の數は比較的甚た少い、而して多數の有爲なる青年をして失望せしめて居る、國家としては、這は甚た不信切な事である、専門家が餘りに殖へたならば、其人々の需要其の供給に適應せず、之れが爲めに學殖ある青年を苦憫せしめ、高等遊民を増すのみなりと云ふ様な説は、國に最高の學門を盛んにする必要と、青年の生活問題とを混同した説である、又大學の數を増すのを好いとして、其の方法として、唯だ單に小年限低級の大學を多數に造らんとする意見の如きは、國家に於ける學問の隆盛の必要と云ふことを省みない、全しく生活主義の説である、國家には、大學と云ふ名が必要ではなく、最高の學術を國家に隆盛にせしめ、其の文化を進めしめよう

と云ふのが、理論上必要な問題である、學を修めしむる人の年配などは學問の隆昌の爲めには問ふ可きことではない、乍併學校としては、修學年限を附するの必要があるようにも見ゆるが、此の程度に付ては、學術を下向せしむる様な事のないようにしたいものである。

第四部 伊太利の學術技藝

十五、伊太利と科學的發明及發見

近代に於ける科學の發達は著しく、各國各々相ひ競つて、自國の誇りの數を多くせんと努めて居る。其の結果、學問界は、非常なる勢を以て、進歩しつゝある。此の間、伊太利の盡せる効果は、如何なる程度のものであるか。

伊太利が、輓近建造したる交通の便宜の爲めに、嘗ては伊太利の進歩を阻害せる、政治上及地理上の障礙も、今は全く其の跡を留めなくなつた。従つて伊太利にも、學問の傳播行はれた今日の世界に於ては、學術的發見あれば其の恩恵が全地球に及ぶのが、一般である。而して、一の學説が、何れの國かに發見せんか、世界に於ける幾多の研究家は、或は之れを賛するあり、或は之れを非難するありと云ふ情態であつて、斯くして、世界の學者は、暫くにして、之れを完成せしむるのである。

現代に於ける、驚異すべき發明に就ても、先づ一人の天才があつて、一の新法則を發見し、又は新機械を發明すれば、其人は之れを公けにして、以て其の學術上及實際上の價值に付、之れを一般の批評に委するのである。而して、此の新發見及新發明を賛するものあれば、其の人は直ちに研究を重ねて、其の短所を補ひ、長所を保存して、之れを世に稱導し、遂に實際上の價值あるものとなすのである。

斯くして學術は、益々發展して行くが、此の科學の進歩に關して、伊太利は今や如何なる地位にあるかと云ふに左の通りである。

甲、微菌學說

佛國の有名なるバストールの研究に基ひて、微菌學は發達し來つたものであることは、争ふ可らざることであるが、乍併、本來、傳染病は一つの生命ある物體より生ずるものであること、の判斷を與へたるものは、伊太利のアゴスチノ、パンシ氏(一七七三—一八五六)である。同氏は、蠶の病氣に關して、研究しつゝある際、偶然該發



見をなしたのである、蠶の病菌は、一の隱花病菌であるべきことを証明する爲め、パシ氏の試みたる幾多の實驗は、實に有名なるものである、パストゥールは暫く後れて細菌の研究に従事したのであつた。

乍併、パシ氏は、學者間に於て、種々の攻撃非難を受けたのである、其れにも拘はらず、彼れは益々熱心に、其の研究を續けて、毫も失望しなかつた、其の非難に對する反駁には、幾多の實証と、幾多の學說とを編み出して、之れを辨護し、火熱熱水、水銀等を以て、細菌を殺しさへすれば、傳染病の感染を防ぐことを得との説を立てた、微菌學に於ては、彼れは伊太利の爲めに、萬丈の氣を吐ひた天才で、實に微菌學者の祖とも云ふ可き人である。

### 乙、電氣工學

電氣力學の範圍内に於ける、伊太利の努力は、一種特別なるものであつた、電氣は種々な他の原動力に變形させることが可能であることからして、學者及實驗家は、電氣を工業的方法により、電流に製造することを研究した。

一八二〇年以來、アンペール、ウルステッド、ダラゴの種々貴重なる研究の効果で、電流等に關する研究が發達した、乍併電流製造機械の製造に關する成功は、英國の物理學者、ファラデー氏の力に歸せざるを得ない。

氏は一八三一年に、初めて電流貯蓄の可能なるを明にした。

一八三二年九月に、ヒポリート・ビキシー氏は、特殊の磁電氣器械を、巴里の科學協會に提出した、四年後の一八三六年に、クラーク氏は、又他の方式の磁電氣器械を、倫敦のローヤルンサイタイに提出した。

尙ほバージュ、ホイーストン、エツチング、ハウゼン、ストーレルの諸氏は、諸種の改良に關し心血を注ひだ、一四八年ノレは、新に機械を發明し、ヴァンマルデレンは之れを完成した。

一八六四年、ウワイルドは、此機械に改良を加へ、一八六十七年、ホキートストン、及シーメンスの二氏は、之れを完成した。

一八六五年、アントアイヌ、パッシノチは、又別種の電氣器械を案出し、之れを、ビーズ即ちピサの學士會に提出した。

パッシノチ式器械は一千八百六十五年五月三日、ピサの學士會にて其説明が發表され、グラナム式器械は、一千八百七十一年七月十七日、巴理の學士會に提出せられた。

歴史の点から云へば、一八七四年、ハフネルアルテルネックの製造せる器械、ブルツシユの器械及、エディソンの大器械等がある、要するに、此れ等の大功績者の中に、フラデー、グラーク、ノレ、パッシノチ、グラナムの名が在存して、各國各々、電氣學上に没す可らざる力を盡して居り、伊太利人も亦、其の功績者の一に屬して居るのである。

丙、無線電信

マックスウエルの説、即ち電流波動は、光線と同一の速度により、波動によりて傳はるものであるとの説は、久しく、特殊研究の状態中にあつた。

ヘンリーヘルツ、ヒュイグ、フオンベツォルド等は、之れに關し、實驗を試みたが未だ、之れを証明するに足らなかつた。

乍併、遂に、電波と其の空間に於ける傳播を、明確に表明するに至つた、其の功は、之れをヘンリーヘルツに歸せねばならぬ。

其の後、全氏の研究を基礎として、種々なる實驗が發表され、而して此電流より、終に無線電信の發明が出来た。

一八九五年ボボッフ氏は、電流の波動に依り、通信をなし得可き意見を發表した、然るに全氏には一切關係なく、全時期に、別にマルコニー氏は、完全なる無線電信機を發明した。

マルコニー氏の發明は、電流を遠距離に送致するに欠く可からざる機具であつた、又他方に於て、全氏は、他の凡ての電氣器具を完成せしめた、彼等の功蹟は、此の事業に關し、實に顯著なるものである。

乍併尙は一層の進歩が必要であることは勿論である、現在の情態に於ては、電波は、何れの受信機にも感應するのであつて、此の事實は、通信の秘密を保ち難く、又電波と電波との混合をも生ずる虞がある、此点は、是非一般の改良を要することゝせられて居る、此の功蹟は何れの國人が之れを果すのであ

るか、乍併、兎に角、マルコニー氏の功蹟は没す可らざるものである。現在の無線電信に關しては、ヘルツ、プランリー、マルコニーの三氏を以て、其の重なる功蹟者とす可きものである。何んとなれば、ヘルツの實驗によりて、初て電流の學説を確め、プランリーの研究によりて、之れを益々進歩せしめ、而してマルコニーの天才に依り、之れを實際に應用し得るに至つたからである。電氣學と云へば、獨逸に限るものゝ如くに思つて居る一部日本人は、學術に對する着眼が餘りに偏狹で、畢竟、國家民人の爲めに、偉大の進歩を招き得ない憂がある。深く考察す可きことである。

廿世紀に於ける文化的事業の中で、最も顯著なるものは、空間の征服である。即ち無線電信及空中飛行機の發達は其れである。而して無線電信は、伊人に依りて發明せられ、空中飛行機は佛人に依りて發明せられた。羅典人種の廿世紀文明に貢獻すること多大なるものがある。

然るに日本では、學問の發達又は文化の進歩せる國と云は、唯だ獨逸又は米國のみを指す一般的傾向がある。此の惡傾向は、抑も外國を觀るの惡

は、其の特長、其の文化の那邊に存するやの点に在る可きに拘はらず、唯だ勢ひの盛んなる勃興的の新國民のみを崇拜し、之れに眩惑するより來るのである。彼の醫術に關しても、唯だ偏へに獨逸を以て本場と心得たり、加之、醫術及醫學研究は、獨逸語を解するのみにて足となし、全く獨逸以外に存在せざるかの如くに考へたりするのは、未だ眞に研究者の態度とは云へないのである。

## 十六、伊太利の美術

### 甲、繪畫

ヴェニス派及ナール派の二派は、現在伊太利に於て、大なる勢力と特質とを有して居る。繪畫に關する二個の反對派である。

#### (イ) ナール派

ナーブル派の特質及傾向は、四十年前、ドメニコ・モレリー氏が表はれて、益々有力となつた。同氏は、筆を揮ふ以前に、其の案を、先づ思想によりて考慮し、思想に基ひて之れを書いた。要するに非常なる思想家であつた。従て其の繪畫は超機械的であり、且つ決して先人の殘した方則に拘束せられなかつた。然し彼れは、宗教上の事物を好んで選擇し、従つて傳説の影響を、大分受けて居たと稱せらる。但し自己の案出せる工夫を以てした事、勿論である。此の人の弟子に、ミチエチと云ふものがあつたが、彼れが一千八百七十八年に、ナーブルに於て初めて出した作品は、直ちに一般の稱賛を博したのであつた。

之れを要するに、ナーブル派の伊太利畫は、現在は、決して隆盛と云ふことは出来ない。其の理由は、多々あるとしても、其の一面の理由は、研究の土臺となる可き第一人者の欠乏である。又生計上の關係から、拙速を尙び、丹青を凝らしたる作品のない事も、其の理由の一である。又傳説的智識の次乏、及思想の淺薄なこと等は、今日の伊太利畫界の欠点である。而かも有名な畫家は、却つて外國に居る。例へば、ニチス、セガンチニ、ボルディニ氏等の如きは、其の例であ

る。

(ロ) ヴェニス派

美術の傳説は、ヴェニス派にも欠けては居ない。十五世紀より、最近の大家、チエポロ氏に到る迄は、實にヴェニス派は、大に隆盛を見せたのであつた。

佛蘭西がヴェニスを侵畧せると共に、ヴェニス派は、帝國風を心酔して來た。而して其の後は、ローマンチックとなつた。然るに、十九世紀に至り、カピアンカ及フアブレット両氏が顯れて、古へのヴェニス派の傳説を復興し、茲に其の舊體を回復した。併し其の後此派も、甚だ振はなかつた。然るに各國人等が、昔しのヴェニス派を賞賛し、其の刺撃に依つて、今は又稍や盛んになりつゝある。

乙、彫刻

グミトは三十年前に顯はれた人であるが、彼れは、伊太利彫刻の爲めに大ひに名をなした人である。其後はグミトに匹敵する價値を有する作品を出すものが一人もなかつた。其れ故に、グミトの作品は、四方の鑑識家より賞美せ

られた、其の後彫刻界は甚た振はなかつたが、最近に至り好ひ作品を出すに至つた。

ナポリ派のバルベラは、戀愛の唱歌と題する陶土製作品に於て、名聲を高ふした、其の他にも、若い美術家にして名ある人がある。

### 丙、建築

伊太利統一は、建築に對しても、全く其の反響を來した、都市も村落も、夫れ／＼新制度に適當する如くに、新式に其の建築を改めたものが多かつた。乍併美術の点から見て、近來の伊太利の建築には、賞賛に價するものがない、何れの建築も、後世に残すほどの偉大高雅なる觀念は、少しもなく、只眼前の利益にのみ是れ走ると云ふ當時であるから、人造石、偽物の大理石などが大ひに使用せられて感歎する様な建築は、更らに起らないのである。

乍併此の四十年間に、僅かに二ツの大なる建築が起された但しそは、羅馬府に於ての事であつて其の一は、プランカチオ宮殿であり、他は、ビオンビノ宮殿

である、ビオンビノ宮殿は、即ちマルグリット皇后陛下の住居せらるゝ所である、此の王宮は、地位も好く、高壯優大で、外界との調和も好く取れて居ると稱せらるゝ。

プランカチオ宮殿は、ビオンビノ宮殿よりも、凡ての点に於て劣つて居ると云はれて居る。

羅馬のリュードビジの新通りに於ける建築は、技術の点に於ては、殆ど價値がない、家屋の所有者の意向に従つて、種々雑多な建築が起されて居る、街區の建築には、本來整一と云ふものがなければ、美術的でない、此点は日本の建築情勢に似た所がある。

日本が、日本固有の土臺作りの整一したる建築、又は御殿風、寺社風等の古雅なる建築を棄て、西洋の片田舎にあらざれば見られない様な惡劣なる洋風の建築を愛好し、人は之れを進歩として喜んで居る有様は、國民本位主義の点から云つても、文化の点から云つても、又美術の点から云つても、甚だ歎息す可きことである、日本を斯くの如くに導ひて行く力學一点張の技

術家の思想及手腕は歎息す可きものであると私は思ふ、英や、佛や、獨やは流石に此点の着眼が唯我獨尊的で面白い所がある、此れ彼等の大ひに進歩する所以である、美術と云ふものは文化優秀の國民にして初めて解し得又發達し得るものである、日本人にして若し自國固有の特絶せる美術を尊重しないと云ふ様な事があつたなら、之は誤りである。

### 十七、伊太利の音樂

伊太利の音樂は、久しき歴史を有して居る、而して其の歴史を傷けず、今日も尙は音樂の名士を出して居る、伊太利音樂の特長は、ハルモニイの点にあらずして、寧ろメロデーの点に於て、優つて居るものとせられて居る、佛蘭西の音樂の如きは、實に伊太利から來たものである、是れ「ミュツセ」の歌へる所である、但し彼れの歌へる詩は、アルモキイの点に留意して居るが、乍伊太利の音樂の特長は、アルモニイよりも、メロデーに在りとせられて居る、伊太利と獨逸とを旅行したるとき、注意深き旅行者は、必ずや此の二國の國

民の中に、音樂の趣味の、一般に行き渡つて居ることを認るのである、而して伊太利に於ては、北はフロレンスから、南はシシリイの片田舎に至る迄、野に於ても、又は葡萄園に於ても、又は村に於ても、町に於ても到る所に、音樂の聲を聞くのであるが、其の音樂は、單純なるメロデーであつて、ギッターやマンドリイヌは、殆んど之を見ないのである、是れ、實に伊太利音樂の特長である、之れに反し、獨逸に於ては、其の市街村落に聞ゆる歌は、一般に複雑なる音調であつて、主にアルモニイヲ尊はれて居るのである、是れ實に獨逸の特長である。

然るに、有名なる音樂者ビエール、ルイギは、「音樂公」と呼ばれた程の音樂の名士であるが、種々に工夫を巡らして、終に衝感的メルデーに更ゆるにアルモニイを以てすることに成功した。

併し此の方法は、決して伊太利趣味に合致せるものとは云へなかつた、而して彼れの技能に感服して、彼れに模倣したものは、皆な失敗であつた。

佛國の國歌、マルセイエーズの鼓吹者であつた伊太利のリユリは、王の保護

の下に種々音樂の改善を試みた、併し彼れは王を満足せしめんことのみ  
苦心した人であつた。

又劇場音樂に付ては、危險な時代があつた、そは劇場に出つる聲樂家連中  
が、自分等の聲音の麗はしい所を、公衆に示し度い一心から、影響を受けたもの  
であつて、連奏方が、純粹のメロディーの意義を失はしめたのであつた、然るに  
スカララツテイは、斯る誤謬に反對して、而かも確かに成功した、彼れは彼れ  
の競争者たる、ヘーリンドルには敗北したが、乍併、門弟として、ベルゴレーズ、ピッ  
チニの二人、及グリュックの競争者たる、ペイジエロを有して居る。

彼の有名なるロッシユは、十九世紀に於ける伊太利音樂界に、大なる影響を興  
へた人である、彼れの音樂は、伊太利一般の趣味に合致し、其の聲望は非常な  
ものであつた。

日本では、西洋音樂と云へば、獨逸又は奧太利にのみ存在するもの、如く  
に唱へられて居る、乍併、伊太利の音樂は、歐人の一般に賞賛する所である、  
山國にして美術を愛する日本人の性質には、伊太利風の音樂の方が、或は適

するであらうかと思はるゝ点がある。

日本人中の西洋崇拜者が、日本に於て、獨逸式西洋の樂器に、依り、獨英文を  
以てせる西洋の樂を奏し、之れを日本人の聽衆に聽かしむる事が流行する  
が、之れを奏するものに、歌の眞意を奏するの能力なく、聽くものにも、毫も歌  
及音樂の眞意味が分らないもの、如くである。

## 第五部 伊太利の社會雜事

### 十八、伊太利の國語問題

#### 甲、伊太利語の發達

伊太利語は、ダンテ以來形成され、今日に於ては國語として、意思の發表には何等欠くる所なきものたるに到つて居ることは、一般に認められて居る。併しながら、過去の永期間、伊太利は孤立の情態に居り、且つ地勢上、交通の非常なる不便なりし所より、外界との接觸少く、加ふるに、國內亦數多の國に分れ、人民に號令する君主は、外國人にして、且つ數多ある情態であつた。従つて各地各々異なる地方語が行はれ、毫も統一が行はれなかつた。其時代伊太利に於ては、學校に於ては、希臘語又は羅典語と共に、伊太利の古語を教へて居た。是れ伊太利には、伊太利語が統一して行はれて居なかつたからである。五十年前より、伊太利に於ける、交通發達し、且つ軍隊教育の效果に依つて、伊

太利語は、伊太利全土に統一して、行はるゝに至り、之れより伊太利語が漸く發達するに至つたのである。

乍併、伊太利の方言は、今に至るも尙ほ各地に行はれて居る而して統一せる伊太利共通語の上下に於ける、敷及に對して、一の障害をなしつゝある。

伊太利に於ては、地方方言は、會話上の詞として、各地別々に使用せられ、文章体の伊太利語は、上流の人達に使用せられ、又は文章家の使用する所となつて居る。

伊太利國民の統一は文章としての伊太利語の、全國に通ずる正式なる使用を必要としたのである。而して此の努力は、十九世紀の初め、二人の小説家によりて、始められたと云はれて居る。一はアレキサンドロ・マンゾニ氏の「許嫁」今一ツはシルヴオ・ペリコ氏の「私の牢獄」である。

十九世紀に於ける伊太利の文學者の努力は、クラシツクの形式と、近世思想の要求との間の調和を發見するにあつた。

近世伊太利に於ける、古典的な大詩人にして、大散文家たるものは、ギオシユ



エ、カルデッチである。彼れは、偶像崇拜の太古に對し、熱烈に心酔し、「美なるもの」外は、何物も考へない、而して彼れは、伊太利に、其の美は、しい太古が、再び現出せんことを夢みて、今日此の再出顯に反對せる一切の説に反抗の態度を取りつゝ、彼れは、「愛」と「怨恨」とを、彼れの美は、しい詩句で歌つて居る。

過去を尤も良く復活せしむる爲めに、彼れは、羅典詩學に、伊太利詩のリズムを折衷した。

彼れの争ふ可らざる才幹は、此の困難を、彼れの手によつて解決した。乍併、彼れの成功に拘はらず、彼れに摸倣したる後進は、全く成功しなかつた。

世人の間に、有名となつたカルデッチの名は、實に彼れが作品の「Hymne à Sata」の爲めである。

今日では、彼れの名のみで、既に彼れの崇拜者間の、心臓を鼓動せしむるのである。

趣味の人は、彼れの詩が、作製に關する何に者か或るものが、物足りないことを認めて居る、彼れを以て、柔かき、且つ精神の稍や欠けた、ヴォルテールだと

稱して居る人もある。

沈思默考家としては、ベネデットクロツエを挙げざるを得ない、仰も沈思する人は、今日一般に客觀的方法により、作品を分解することを欲するのである様に見ゆる、彼れも亦其の類であると云はれて居る。

伊太利近代の思想を最も良く表はし、而かも形式的の古代美を失はないのは、ガブリエレ、ダンヌンチオである。

彼れの小説及脚本は佛國に知られて居る。

彼れの作物は、彼れが感情を最も大膽に云ひ表はし、而して最も微細な点迄、筆を進ませて居るので、有名である。

乍併、彼れの脚本は、一般に趣味あるものとせられて居ない、蓋し彼れは舞臺の要求とか、公衆の要求とか、と云ふものを解せず、且つ自ら之れに付き少しも意を用ひないからである。

彼れの詩は佛語に之れを譯すること難く、従つて佛國の讀者には知られて居ないのである。

今日の伊太利文學界の代表的人物としては、カルヂユッチとダンヌンチオとである。

尙ほバスコリ、フオガザロ、ドサンクチス、フエレロ等の有名なる文士があるが、此等の人は、國外には知られて居ない。

伊太利の作者の中には、又閨秀作家に乏しくない、即ち例へば、セラオ夫人、オサフニ夫人、デレダ夫人等は、第一流であつて、此等の夫人は男子の作者と相並んで、小説、脚本等を作り、又新聞紙上にも議論をなすのである。今や伊太利は、智能的活動の花が咲きつゝあるのである。

乙、演劇に依る國語の普及

伊太利が富んで來るに従つて、劇場に於ける入場者の數は、日一日に増加しつゝある、而して又教育の普及に依る文盲者の減少は、新聞講談者の數を増加し來つた。

伊國語の普及を完全ならしむるには劇及新聞は、最も便宜な手段である、

蓋し新聞も劇も、共に全伊太利に於て、通づる言語を擇んで、意思の發表をなすからである。

デューセ夫人の、巴里に於ける劇を見た者は、彼女のドラマチックの表情を忘るゝことは、出來ないと云はれて居る、彼女の特長は、實に眞實を出來る丈け捉ふることである、夫れは(椿姫、ダームオーカメリヤ)が、有名なる女優サラベルナルと此のデューセとに、依つて、演せられた時に、兩人の藝風は、良く發揮されたと云はれて居る。

即ち、サラベルナルの演ずる、マルグリットは、常に其の悲痛に沈めるにも拘らず、常に希望ある、優さしき可憐の女であることを表はして居る、彼女の貧と病とは、悲痛は頗る悲痛であつて、満場の男女をして泣かしむるけれども、乍併、彼の女の優美が、觀客の心の裡に、深く深く留まるのである。

然るにデューセ夫人のマルグリットは、之れに反して、女の優しき一切の性質を悉く抛ち棄て、而して其の病床は、破れ床であり、彼女の衣は貧に汚れ、且つ彼女の咳は、實に厭惡の感を惹起さしむるのであつた。

茲に、兩女優の藝風が、遺憾なく表はされて居る。サラベルナル夫人の、藝術に對する意は、「美」である。デーセ夫人のは「真」である。何れが是で、何れが非か、何れが優つて、何れが劣るか、は、見る人に依り異なるけれども、デーセ夫人も確かに有名なる女優である。

今日の伊太利は、俳優の數は、日々増加して居る。マチルヂセラオ、ロベルト、ブラッコ、セムベネリ、ギアニノ、アントナトラベルシ等、全國の劇場に於て、伊太利の創作的の劇を打ち、外國人を羨まして居る。

丙、新聞紙に依る國語の普及

伊太利新聞の特質を擧げると云ふことは、容易な業ではない、但伊太利新聞の其の組織、其の資本等は、大抵歐洲の何處の國とも全じである。事件に關する記事は、眞實を述ぶるよりも、顧客の興味を惹くことに努めて居る。是れ既に世界一般の風である。

重罪裁判事件、又は淫猥に關する事件は、新聞社の最も選ぶ問題である。加

特力の新聞は、成るべく斯る記事に關しては、之れを避けるのであるが、保守主義な人の經營は、餘り面白からぬ結果を來し、進歩的の考へを有して居る人の新聞は、大ひに利益を得て居る。排宗教主義は、常に宗教主義よりも、一般に人氣がある。

尙ほ、エンリココラディ二氏が、全志の文士等と共に、イデアナチヲナレなる題号の下に、新に發行を試みた新聞は、伊太利國民主義を鼓吹して起てるものであつて、祖國の發展を熱望し、同胞の一部が、他國の領土内にあるを糾合し、一つの大なる全伊太利民族に依る伊太利の建設を、理想として居るものである。今日の伊太利に於ける、一大事業の一は、實に伊太利語を統一し、伊太利思想を全伊太利人に普及せしむる事である。此の統一普及の行はれざる間は、伊太利人なる字は、狹義と廣義とに解せられ、従而又大伊太利の建設は、未だ容易に到達し得ないのである。伊太利人の全部を統一して、茲に大伊太利の建設が出来るのである。

日本人の一部人士のように、自分の國に千年を費して發達した國字を、遮

かに全廢して、他國の文字を採用し、日本の國字國語を唯た單に、英米風に仕様なぞと云ふ、自屈な考案を以て居るものは、自主自我自尊なる西洋には何所を採しても、之れを求むることを得ない、新興の國民たるルーマニヤでも、ギリシヤでも、ハンガリヤでも、伊太利でも、其の國字國語の歴史を調べて見れば、各々皆な自分の國字國語を固有に發達させ、之れを以て、列強に對抗せんとして居る、如斯觀念は、今日の國民としては、當然のものである、之れあるが故に、即ち西洋人種の文化は、進むのである。

日本の羅馬字論者は、文字のみを外國文字にし、國語は勿論之れを保存し、毫も國語を變更する如き事はないと唱へ、我文字を外國文字にした所で、日本語は決して改廢せらるるものでないと云つて居るが、試みに日本の仮名や、朝鮮の諺文を以て、英語、佛語、露語、獨語の音を書き表した所で、之れが果して、英佛獨露語であるか、云ひ得るか、伺ひたい羅馬字を以て、日本語の發音丈を陳列した所で、左様なものは、日本語又は日本文其者ではない、斯る自屈な眞似をして、二千年の歴史ある固有の日本語、日本文を廢滅變更させよう

云ふ様な事は、洵に無益な事であると思ふ。

### 十九、伊太利の家族

古代羅馬に於ては前にも述べた如く、家族は凡て絶對的に戸主權の下に統轄せられたるものであつた、其の後羅馬亡ひて此の風習は一般に廢つたが、伊太利には幾分之れが残つて居る。

久しく野蠻であつた歐洲も、基督教の傳播と共に、漸く一家に於ける妻の權利が認められ、離婚を禁止するに到り、夫婦を基礎とする家族は堅確になつた、家族主義と基督教との關係亦以て知る可きである。

斯くの如くに變化するには、一千五六百年の歲月を要したものであつて、單純に法律や命令で直ちに實行せられたものではない、今日の家族と羅馬時代の家族とは大部範圍が違ふのであるが、乍併、尙ほ今日と雖も、實際上、伊太利の田舎に於ては、西洋の都では見ること出ない戸主權の強大を見ることが出来るのである、殊に「トスカナ」地方に於ては、何如に老年になることも、尙壯

健である限りは、一家の男女、其子其の孫等、一切を指揮して、仕事に従事する風習があつて、其の權力は、亦大なるものである。中部伊太利にも、大略全じ様な風がある。

### 二十、伊太利の遊戯

遊戯は何れの人に就ても、体育上欠ぐ可らざるものである。而して伊太利に於ける遊戯の發達は、羅馬時代からの影響を受けて居る。伊太利に於ては生命に必要な腕力、勇氣、身体の發達は、勿論研究され唱道されて居た。然しながら、伊太利の大部分は、氣候温暖であつて、人民一般に蠻勇の粗野の風少く、從而柔弱に流れ易い風がある。羅馬傳來の遊戯は、武勇を勵むの目的を有して居たが、乍併其の多くは危険なものであつた。然るに伊太利は、沈滞に沈滞を重ねたる事多年なりしが爲め、多くの地方には、豪勇の風が全く地を掃つて失せ盡した。今より五十年前の伊太利の高等學校の生徒の服装の如きは、洵に貴族然たるものであつて、彼等は、シルクハットを戴き、黒色

なる威嚴正しき禮服を着して、二列をなしつ、市街を隊伍を整へて、歩いたものである。彼等は、遊戯の場合にも、尙ほ優雅なる方法を取つて居たものであつて、若し彼れ等の中で、球投げ、棒投げ等の如き、亂暴な遊戯をなすが如きものあらば、這は正さに革命であつた。斯様な次第であるから、其の當時は、單に優しい種類の遊戯が行はれて居た位である。

乍併羅馬風の遊戯の尙ほ存在して居た地方に於ては、之れに反し、危難な遊戯が行はれた。但し單獨のもののものであつて、共同精神を養ふには適當せず、且つ多くの不具者を出すの危険があつた。

最近伊太利に於ては他の諸國に於けるが如く、ヨット、乗馬、狩獵、自動車、劍道、と云ふ様な種類の遊戯が行はれ出した。但し此等は、多くは富豪及上流社會のなす遊戯である。中流社會及其の以下に於ては、自轉車、游泳、フットボール、端艇等が採用されて居る。

結論

由來我國に於ては、自畫自讃的なる獨逸人の主張に聽き、且獨逸人種の近代に於ける發展に眩惑して、國民的發展と云へば、唯單に獨逸人種の發展にのみ限るものゝ如くに唱へられた傾があり、獨逸人の主張するが如くに、ラテン人種と云へば、既に其の血液枯渴し、國民としては、ラテン人種の國は既に凋落に傾き、到底其の國民的存在さへも困難であるかの如くに傳へられて居た。然るに焉ぞ圖らん事實は之れか反証を掲げて居り、近代伊太利人の政治的、經濟的、學術的社會的發展は、前述の如くに、甚だ感歎に價するものがあるのである。佛人ルーマニヤ人の如き其の他のラテン人種の發展に至つても亦非常なるものがある。勿論近代に於ける獨逸國民の發展は、其の古へに比し實に驚歎す可きものがあるは事實である。然れども、獨逸人の發展が熾んであると全時に、競争の激甚なる歐洲に於ては、ラテン人もスラヴ人も、將た又アングロ

サクソン人も、共に一刻も油斷の出來ぬ所から、各々皆な其の發展の熾んなるものある事を我等は忘れてはならないのである。蓋し是れ我等は、廣く世界の文化を攻究し、世界の文化に貢獻せんとするの主旨よりして、此事が我等の爲めに必要事であるが故である。

今の伊太利人の勢力は、北米に伸び、又南米に廣つて居る。其の四百萬の移民即ち其れである。而して又其の勢力は、又亞弗利加の北部にも既に蟠つて居る。即ち今の伊太利は、世界的大國として甚有力なる地歩を占めて居るものと云はざるを得ない。今の伊太利は、偉人ビスマルクに衷願して、異人にして曾て久しく壓迫を受けたりし獨逸人種の驥尾に附したりし時代に於けるか如き幼稚なる伊太利ではない。今の伊太利は、實に日英佛露なる世界に於ける四大國の同盟國である。而して今の伊太利は此の四大國を友として、トリポリ占領時代に發輝したりし如き其の巧妙なる外交政策を行ひ、益々歐洲並に其他の大陸に向つて、發展せんとして居るのである。我等邦人は、世界の形勢を察知するに詳細なるを要する所より、決して此の發展國の研究を忽せに

してはならないのである。  
 今の歐洲には、汎獨主義なるものがあり、又汎ムスラーム主義なるものもある、此時に當り、ラテン人種のみが、獨り其の全人種の間、に隔合調和を欠き、他の人種の壓迫を平然として、孤立的に眺めて居る可き筈か、と思はるゝ、ラテン人種間に、貨幣の聯合政策は曾て成立したのであつた、今や曾て仇敵の間柄にありし伊佛は、益々親近し來つて居る、之れより漸次必要に迫られ、ラテン人種の政治的永續的親和の生し來る日ある事を、我等は豫察せざるを得ないのである、是れ實に歐洲のみならず、實に世界に於ける一大勢力である、蓋し其數は一億を越ゆるの多數であるが故である、我等は常に世界の形勢を考察するの必要を有する所から、ラテン人種特に伊佛兩國人の實情を攻究するの必要を慮からざるを得ないのである、是れ亦我等が、伊太利の政治的經濟的社會的事務の研究を爲す所以である。

### 現代伊太利の發展終

大正五年六月廿五日印刷  
 大正五年六月三十日發行

(定價金壹圓)

著者 蜷川新

發行所 靜岡縣濱松市旅籠五十番地  
 印刷者 兼 鞍智芳章

發行所 奉公會  
東京市小石川區大塚坂下町三十八番地  
振替口座東京一九七八九番

發賣所 目黒書店  
東京市京橋區南馬場二丁目  
振替口座東京二八〇九番

複製 不許

奉公時事叢書

稻葉君山著

支那帝政論

第一編

菊版二百四十頁  
上製一  
並製八  
郵稅八  
錢錢圓

大阪 毎日 評言  
本書は民國元年の秋、國體變更、帝政復舊運動に籌安會なる名下に開始せられしことより起筆して今日に至る迄の帝政運動の經過と袁總統の之に對する態度並に其眞意等を史的に記述し、表裏兩面の消息を仔細に物語りて其眞相を闡明せんことを試み、讀者が袁總統の執れる政策が何故に失敗するに至れるかを判斷するに當りて、略々正鵠に近き智識を得るに便ならしめたるものなり云々

奉公時事叢書 發賣所

東京市京橋區南傳馬町二丁目

目黒書店

振替口座東京二八〇九番



## 奉公叢書發行趣意書

明治維新以來、文運隆昌、十室の邑猶庠序の設けを見、三戸の村時に絃誦の聲を聞く。而して新著の刊行舊書の覆刻せらるゝもの、日に月に盛にして、所謂汗牛充棟の觀あり。然れども、多くは讀者の意嚮を迎合、發售の多數を希ふを以て、精深の研究、眞摯の編著にして、猶公刊の機會に遭遇せざるもの少なからず。これを以て、幾多の學者は、荆山に璞を抱きて號泣す。是れ豈昭代の恨事にあらずや。

本會は創立以來二十餘年、毎月雜誌を頒ち、臨時講演會を開き、奉公の實を擧げんことを期したり。今や、更に進みて、叢書の出版を企て、有益なる著述にして未だ公刊の機會を得ざるものを選択し、逐次これを發行して昭代の文運を裨補し、學界に貢獻する所あらむとす。江湖の諸彦、願はくは本會の企圖を賛襄し、その事業を完成せしめられんことを。

大正三年六月

奉 公 會

### 第一篇

文學士 中村孝也君著

## 江戸幕府鎖國史論

總クローリス  
菊版四百頁  
定價壹圓貳拾錢  
郵稅拾貳錢

#### 目要

序論—江戸幕府以前の對外關係—家康の開國方針—慶長の鎖國的傾向—元和寛永の禁教運動—貿易の趨向—鎖國の遂行—鎖國の勵行—結論

### 第二篇

文學士 菊池仁齡君著

## 奈良平安時代の奥羽經營文學士玉泉大梁君著室町時代の田租

合本クローリス  
菊版三百七十  
定價壹圓貳拾錢  
郵稅拾貳錢

#### 目要

序論—本論—政策—結論  
緒論—土地測定の單位—用地の種類—田租の種類—徵收法—納期—田租の率—錢納及雜納—結論

第三編

文學士 鳥山喜一君著

渤海史考

總 三〇一頁  
菊 版  
定 金 壹圓  
郵 稅 八錢

目要

本論序説—前編渤海王國の興亡—後編渤海王國の文化—結論  
外編—我國との國際關係—疆域考

第四編

文學士 牧野純一君著

後北條氏民政史論

總 三〇一頁  
菊 版  
定 金 壹圓  
郵 稅 八錢

目要

後北條氏概観—民政の主義—農業に關する民政—工業に關する民政—商業に關する民政—結論  
後北條氏民政史料主要文書

奉公會會員募集趣意書

皇室の隆運を翼賛し國家の公に奉ずるには、我等臣民の大義なり。現時、世界の  
大戰は、特に此大義遂行の必要を教ふるこの切實なるものあるに非ずや、而か  
も國民の多くは、未だ其の本義を解せず、未だ之か徹底を見ざる憾あり、然るに、  
歐洲に於ては、今や戰正に酣にして、各其の國家に對し、奉公思想油然而起して起  
るの時に當り、我が日本國民たるもの、豈に之を等閑視して可ならんや。  
蓋し奉公は、國民行爲の本源にして、其地位、職分の如何を問はず、奉公の精  
神にして充實せざらんか、決して國民の本義を全うする能はざるべし、吾儕、茲  
に不似を省みず、日本主義の宣揚を圖り、以て奉公の實を擧げ、上 皇謨に副ひ  
奉らんことを期せんとするもの、實に現時の形勢に感ずるところあればなり、江  
湖同感の士、希くは來りて之を賛げよ。

大正五年六月

奉公會

## 奉公會々則

- 第一條 本會は奉公會と稱し日本主義を宣揚し奉公の實を擧ぐる事を期す
- 第二條 前條の主旨に依り本會は毎月一回會報を發行す
- 本會は又隨時奉公叢書を刊行し講演會を開催す
- 第三條 本會の主旨を賛し本會に入會するものを通常會員とす 通常會員は會費年額六拾錢を負擔するものとす
- 本會は特別會員を置く 特別會員は會費を負擔せず
- 第四條 本會に顧問若干名を置き任期は無期限とす
- 第五條 本會に主事一名幹事若干名を置き會務を處理し任期は無期限とす
- 第六條 本會は毎年一回東京に總會を開き會務を報告す
- 第七條 本會に基本金の制を設け特志者の寄附金を以て之れに充つ 本會は追て財團法人とす
- 第八條 通常會員の會費は會報發行費に供し其他の經費は基本金の利子を以てす
- 第九條 本會は必要に應じ支部を設置す

## 支部規定

- 第一 本會は一地方の會員五十名以上に達し支部設立の希望ある時はこれを設置す
- 第二 支部に支部長を置く 但支部長は支部會員の統一を圖り本會と支部との幹旋に任ず 支部長は本會々費を免す
- 第三 本會は支部の希望ある場合隨時講師を派遣す 但その實費は支部の負擔たるべし

## 本會役員

顧問	醫學博士 井上通泰
全 全	貴族院書記官長 柳田國男
	法學博士 蟠川新
主事	鞍智芳章
幹事	中村修二

328  
38 1/2

終

